

平成22(2010)年度「NGO長期スタディ・プログラム」最終報告書

提出日：平成23年3月13日

特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター
理事長 大橋 正明 殿

社団法人 アジア協会アジア友の会
会長 萩尾 千里

氏名： 横山 浩平

所属団体： 社団法人 アジア協会アジア友の会

受入先機関名(所在国)：インド、アラハバード農業大学 教育継続学部

研修期間(全体)： 平成22年11月17日 ~ 平成23年3月14日

研修テーマ：

インドにおけるマイクロファイナンスの現状と課題を研修を通して学び、インド社会におけるマイクロファイナンスの役割を理解し、本会プロジェクトに還元する効果的な手法を学ぶ。

全体研修目標：

相互扶助、自立したコミュニティ作り形成のためにインドにおけるマイクロファイナンスの手法、現状、課題を研修を通して学び、社会における役割を理解し、効果的なマイクロファイナンス導入方法を学び、実践に活かす。

具体的な研修内容：

A. 受入機関内における研修

アラハバード農業大学教育継続学部の研修生として籍を置きながら以下の研修を実施。

1. マイクロファイナンス事業の研修。女性の自助グループ(SHG)の貯蓄率向上方法、村落内における役割・課題、回転資金創出方法及び課題に関して研修
2. 栄養改善事業にて展開されているヘルスセミナーに参加し、村落ヘルスボランティア(VHV)の役割と課題、地方の公的ヘルス機関との連携について研修
3. ファンドレイジング部(アラハバード有機農業組合)に所属し、事務補佐を行いながら、当組合の役割・課題の研修

B. 他機関における研修

マイクロファイナンスを展開している NGO・機関の訪問・研修

1. Self Employed Women's Association (以下 SEWA)に訪問。マイクロファイナンスと様々な協同組合との連携を通じた SHG グループの市場連携の研修及び、SHG グループを中心とした女性リーダーの育成方法の研修。マイクロファイナンスの様々なサービス内容の研修（グジャラート州アーメダバード県）
2. Shri Kshetra Dharmasthlana Rural Development Project (SKDRDP)に訪問。マイクロファイナンス事業内容・展開方法を研修。アニメーターの役割、独自村落グループ Pragathibandhu Group（男性の自助グループ）の組織化、SHG グループの育成方法、村落の農村連合会議に参加。SKDRDP 事務局長のインタビュー。（カルナータカ州南カンナダ県）
3. ウクリ村協同組合銀行（カルナータカ州ビジャプール県）、政府系農村開発・マイクロファイナンス機関 Mahila Arthik Vikas Mahamandal（マハラシュトラ州ガッチロリ県）にてそれぞれの事業内容を実地訪問・研修
4. Indian Society for Social Action (ISSA)にてキャパシティビルディング研修（リーダーシップスキル、パーソナル開発スキル、インド NGO に関する法令などの研修（マハラシュトラ州プーネ県）

研修の成果：

経済成長著しいインドにおいて、農村部と都心部の経済格差がより一層広がっている。その中でマイクロファイナンスは農村部の人たちの自立のために必要になってきている。その現状と課題をこの4ヶ月間の研修期間で深く掘り下げて学び、本会がいかに関内において、マイクロファイナンス及び様々な農村開発事業を実施し、自立したコミュニティを形成していけるのか、多くの材料を得ることが出来た。

アラハバード農業大学教育継続学部（以下、MSCNE）においては、農村開発事業の基本を学ぶことが出来た。MSCNE での対象は僻地農村において姿顔を普段見せることのない、アウトカースト層の女性を中心であり、MSCNE のアニメーターたちが適宜に村へ訪問を重ねながら、女性たちの悩みやニーズを導き出し、ニーズをベースに事業を進めていた。多くは普段の重労働による健康面のニーズが多く、栄養指導、家庭菜園などの研修を重ねながら村の女性たちの問題を解決している。時には大学内で研修を行い、実体験実習のために村から外に出ることは、女性たちの自信を高めるきっかけとなり、その訓練を継続的に実施していた。マイクロファイナンスにおいては、女性の自助グループ (Self Help Group 以下 SHG)を形成し、貯蓄管理指導、リーダー研修とローンへの準備、栄養健康管理のニーズにおいては、村落ヘルスポランティア(Village Health Volunteer 以下 VHV)を形成し、村の中での自助による栄養健康管理指導が実施されていた。SHG 及び VHV を通して村のニーズがしっかりと把握できるようになっており、それに応じて適切な指導と事業実施を通して問題を解決しながら自立へと導いていく方法がいかに関内において重要であるかを学ぶことができた。

SHG の組織化により女性の生産性の向上が顕著であり、その結果、自信と誇りをもつようになっていたが、貯蓄管理が MSCNE 内にて行われているために定期預金利息が発生しないこと、ローンが MSCNE 内のファンドによる限定的なものであることから、医療、教育、結婚資金を得るための回転資金が生み出せずだった。また、定期預金利息による貯蓄の増加は目に見えやすく、銀行・ローンアクセスの向上が課題であることを学んだ。また、MSCNE 内にあるアラハバード有機農業組合（政府認可

の有機農業組合)があるが、現在の主活動は学部内にての加工品の生産、販売が主であり、SHG グループの収入向上のために必要な市場へのリンクが行われていない。現在、都心部では、有機農業認可の商品ニーズが高まっており、有機農業認可は一つのブランドとなってきたため、今後、SHG と上記組合を繋げ、収入をどう高めていくことも課題であることがわかった。

今回の研修において他機関訪問は、有益な情報を得ることができ最良な研修となった。上記した課題に於いても他機関を訪問し、それぞれの手法を比較することにより、見出すことが出来た。

SEWA は Self-Employment、Self-Reliance を基本理念にあげており、それらを妨げる要因を導きだし、解決するための細やかなサービスと配慮が女性たちに届けられています。SEWA は労働組合として始まり、インド国内における SHG 形成と貯蓄を基本としたマイクロファイナンスモデルを形成した団体で、労働組合を主体としながらも、SEWA 銀行というマイクロファイナンス機関、SEWA 協同組合、SEWA アカデミー(研修・研究機関)、SEWA トレード会社など、それぞれが独立して運営を行っている。独立運営という形態を取りながらも、それぞれが供給するサービスが基本理念の下に一つに繋がっており、これらを通して自助自立が出来るモデルをしっかりと作り上げていた。詳細は <http://www.sewa.org> を参考にしていきたい。

例えば、農村の女性たちが生産する農作物に関しては、市内にて女性による農業協同組合を設立し、市場を確保し、正規な価格で農作物が販売されるように独自の市場交渉術を生み出している。市内のスラムにおける縫製労働、インセンス作り労働、ゴミ拾い、屑拾い労働者など(ホームベースワーカーと呼称)も組合化され、それぞれの組合に応じた市場を築いており、雇用を生み出していた。「正規な価格」を得るために、労働組合が取引先や政府などと交渉を行い、「女性」というだけでの不公平な価格設定がされることの減少に努めていた。また、過酷な労働のために収入の殆どを医療費に使用することが多く、医療費の捻出をおさえるためのマイクロ保険会社を設立し、医療保険や年金が支払われるような仕組みを作り出し、安価で加入できるサービスを提供していた。農村内では健康、栄養指導を SHG に対して行ったり、SHG から助産婦の育成及び政府認可(政府認可により助産婦はアルバイト料金を得ることが可能)などの実施をするなど、基本理念に忠実で、様々な側面から女性たちが自助自立できる可能性づくりを地道に行っていた。

SKDRDP は、Dhalmashtlana 寺院を運営管理する SKD 宗教法人をバックに農村開発事業ユニットとして独立 NGO 化させた団体である。詳細は、<http://www.skdrdp.org> を参照して頂きたい。

これまでの研修機関は SHG の女性を主体とした自助グループへのマイクロファイナンスであったが、ここは SHG の他に Pragathibandu Group (以下 PG)と呼ばれる男性 5 名~7 名の自助グループを形成し、マイクロファイナンスが行われている。SHG、PG 双方ともに言えることだが、貯蓄の他にも 5 年間の農業・活動計画を立てることが義務づけられている。各グループの収入向上や成長を見計らうために 5 年計画(返済、作付け、家庭内における支出計画など)を立て、自らの成長度合いが分析評価されることにより、農村の人々のモチベーションをあげている。SKDRDP がカバーする地域の主は、山間地のために、土地の構造上、人々が点在して住んでおり、コミュニティ形成が難しくなっている。また、若者の労働人口の減少も大きな問題となっている。問題解決のために PG にて、ワークシェアリングを

毎週行うことを義務化しており、労働力をお互いに補うことにより、労働人口の減少問題を解決しながら、ワークシェアリングによるコミュニティの一体感を生み出すことに成功している。

もう一つの特化した活動として、一村内にて複数の SHG、PG リーダーたちが月一回集まる SHG-PG 連合会議がある。ここでは各グループの返済状況、活動状況が報告されるとともに、新規ローン申請プランが発表され、審議・採択が行われることになっている。その他にもグループの返済状況、定期会議への出席状況、貯蓄状況が評価され、成績付けがされ、発表されるなど、各グループの状況が村の中で認識できるようになっている。また、返済状況のよくないグループや個人の問題などが、お互いの顔を見ながら話し合わせ、解決方法などが見いだされるので、各グループ及びリーダーたちの責任感を生み出している。どうしても話し合いの中で解決しない場合は、直接代表者（Dhalmashtlana 寺院の生神様）に解決方法を求めることもできるなど、宗教法人であるということのユニークさも兼ね備え、ユニークでありながらも民主的な村の会議の運営方法を学ぶことができた。

その他の機関の訪問・研修に関しては、受入機関の休暇期間、国内移動の期間を利用し、実施することが出来た。NGO スタッフのキャパシティビルディング研修、協同組合銀行の訪問、政府機関によるマイクロファイナンス実施などを学ぶことができ、休暇や移動などの短期間を有益に活用することが出来た。

研修総括：

上記の研修を通して、目標としていたインド国内におけるマイクロファイナンスの現状と課題、社会的役割を多く学ぶことができた。受入機関を中心に他機関訪問を通して、参考になる事業のプロセス、手法を学び、今後、マイクロファイナンスと農村開発事業を総合的なアプローチで進めていく手法を学ぶことが出来、成果は期待以上であった。

滞在期間中に国内のマイクロファイナンス機関による多重債務・自殺者が出て、ローン規制法がアンドラプラデッシュ州にて制定されるなど、改めてマイクロファイナンスのあり方を考え直す機会もあった。その中で、いかに総合的なアプローチで地道にそれぞれの事業を一つ一つ繋げていき、自助自立したコミュニティを形成し、その成果を積み重ねていくことが重要であることを理解することができたと思う。これを通して、アジア協会アジア友の会の海外事業に新たな側面を導き出す方法を得たことが最も大きいと感じている。

利益志向が強まるインドの中で、地道に形成されていた住民グループがその志向を抑制する働きを持っている。こういった動きはインドだけでなく、日本の国内にも適応できることであると考えます。この研修での成果を様々な側面から活用し、国内外に還元することが私の研修を受け入れてくださった諸機関に対する感謝にも繋がり、実践することでこの研修が活きたものになると確信している。

本研修成果の自団体の組織強化や活動の発展への活用方針、方法：

当研修成果の報告及び、本会のインドにおける海外事業との比較事例研究を作成し、海外プロジェクト委員会内にて検証を行い、実施方法をまとめ、本会現地提携団体との会議を行い、実施してく運びである。

本プログラムや事務局側に対する提案、要望等：

スタッフのキャパシティビルディングに於いては有効的なプログラムであり今後の継続が望まれる。
滞在期間に関しても申し分がなく、この機会を得ることができたことに心から感謝したい。